

CUBE

18

Autumn,
1997
No.

キューブ
IHI
PARKING
NEWS



IHI
石川島播磨重工
パーキングシステム事業部

宍道湖のほとりに
高層インテリジェントビルが完成

かつて松平藩十八万六千石の城下町として栄えた松江は、山陰一の中核都市だ。縁結びで有名な八重垣神社や八雲立つ風土記の丘など、神話ゆかりの古寺社や文化財があちらこちらに点在し、また城下町としての面影も色濃くとどめている。そんな松江の西側一帯を占めるのが、総面積約八〇平方キロメートルを誇る宍道湖だ。大橋川と中海を経て日本海へと通じる宍道湖は、海水と淡水が入り交じる汽水湖としても名高い。

D E V E L O P - M E N T 立 体 展 望

この10月、島根県宍道湖のほとりに11基目のIHIシャトルパーキングがオープンした。山陰合同銀行の新社屋に建設されたこの駐車場は、山陰の地域性を考慮して雪害や防音の対策に工夫を凝らしたものに仕上がった。

インテリジェントビルの一翼を担う IHIシャトルパーキング

山陰合同銀行新本店ビル

新社屋14階の展望フロアより松江市の南北を繋ぐ宍道湖大橋を望む。



ESSAY・FREE WAY

「タワー
パーキングが
残して
くれたこと」



尾崎茂雄
Ozaki Shigeo

石川島播磨重工業株式会社 理事
産業機械事業本部 副本部長

イタリアのあるメーカーとタワー・パーキングの技術提携をしていた時代がある。社長のA氏がたびたび来日し、業界のリーダーであるIHIに援助を求めてきたのである。確かに、ドイツのメーカーでも類似の製品を製作していると聞いていたので、A社長に「何も日本のメーカーと技術提携しなくても良いのではないか」と申し上げた。しかし、A社長の意志は堅く、またその熱意にはだされて技術供与の運びとなった。その後いろいろな案件がA社長より持ち込まれ、時には技術者を派遣して案件の実現に協力した。だが、どの案件も実現には至らなかった。A社長によると、古い町の美観を損ねるからダメ、地面を掘ると遺跡が崩れるからダメ……。爾来、時が流れ同社との技術提携も消滅した。A社長とは長らくお会いしていない。

韓国や台湾では、現在、各種のパーキングシステムが定着している。IHIも競合他社も技術提携、あるいは業務提携などのかたちで進出している。しかし、今日の姿になるまでには、かなりの年月を必要としたのである。IHIは、二十数年前にもかなり熱心に販売活動を行なっているし、某社は数基の実績を残している。繰り返し販売活動をするのだが、うまく行かなかった。理由はいろいろあるだろうが、その最大の理由は「機が熟していないかった」ということなのだろう。

アジアの国々でも車社会の到来を迎える。大都市は車があふれ、駐車スペースを探すのが大変である。車の通る路が駐車場化し、交通渋滞は日常茶飯事である。この光景を見ると、タワー・パーキングやエレベーターパーキングが爆発的に普及しそうに思える。技術供与を求める声も多くある。どうなるのだろうか。わたしには、わからない。

アメリカの会社からも技術提携をしたいとの申入れを受けたことがある。この話は、瞬時にダメになった。数回の来日と技術提携に関する条件のやり取りを経て、順調に進んでいた。ある時、10人ぐらいのグループがその会社の人に案内されて来日した。動いている実機を見たいという要望があり、神田のあたりにお連れした。御一行様は、数日後に帰国。間もなく1通のレターが届いた。IHIのもてなしに対する感謝の意と、技術提携について考え直したいという内容であった。「タワー・パーキングの出し入れには熟練を要するという印象を持った。車を乗り入れる時、穴に吸い込まれるようで恐かった。アメリカで普及させていく自信がない。技術提携を断わってきた理由は、多分他にあるのだろうが、私達が平気でやっていることが、必ずしも世界のどこにでも通用するとは限らないのだと、当時、納得した覚えがある。

タワー・パーキングもいろいろな思い出を私に残してくれている。



表紙の言葉

ローテンブルグ・ヘルンガッセ通り
(ドイツ)

ドイツ中南部からオーストリア国境までの
約300キロの道を浪漫街道と呼ぶが、

これは11-13世紀に各地の群小領主が築いた城砦が
今なお道筋に残るのを巡り観るための称。

そのひとつでタウバー川沿いの高台に森を見下ろし、
「中世の宝石」と讃えられるのが

人口1万余のこの街。

12世紀に建った城砦は14世紀に市庁舎となり、
聖ヤコブ教会やジュピタル内門とともに

往時の面影を残す。

街の中心、市庁舎塔に面した

ヘルンガッセ通りには、ヨーロッパ各地からの
観光客の駐車が絶えない。

CUBE
IHI PARKING NEWS

Autumn, 1997 No.18

CONTENTS

- | | |
|----|---|
| 1 | ESSAY
「タワー・パーキングが残してくれたこと」 |
| 2 | 立体展覧●山陰合同銀行新本店ビル
インテリジェントビルの一翼を担う
IHIシャトルパーキング |
| 5 | ユーザー訪問●横浜市中区 ハイランドレジャーセンター
ボーリングと共に、駐車場と共に |
| 8 | 視点360°●景観シリーズ 東京都・世田谷区タローパーキング
尾長鳥がとまっているパーキング |
| 9 | 海外トピックス●技術提携
マレーシア
C.H.Ample-Park社 |
| 11 | インターネットを語る
建築・建設業界のINTERNET
活用状況について |
| 13 | 駐の文化史●周・戦国
封建制が生んだ諸侯の大規模城市 |
| 14 | キューブコミュニティ
宇都宮にタワー・パーキング八基連立の大規模市営駐車場
完成! / ソウルにも初登場! シャトルパーキング |
- 『CUBE』は「立体」の意。三次元的な思考を要する時代の扱い手であげたいという希望をこめた誌名。

今年の一〇月、その宍道湖を一望に見晴らす地にオープンしたのが山陰合同銀行の新本店ビルである。同行が総力をあげて建設した新社屋は、竣工するなり早くも松江のシンボル的な役割を担つており、一般に開放された一四階の展望フロアや、吹き抜けの一、二階に設けられたプロムナードなどが市民の関心を集めている。

宍道湖と調和したシンプルな設計で景観の問題をクリア



シャトルバーキング内部。片側1レーン、片側2レーンの変則ツインパレット方式である。



山陰合同銀行総務部本店建設推進室室長の尼ヶ崎幹夫さん。

D E V E L O P -
M E N T 展 望

新社屋14階の展望
フロアより松江市内
を望む。



宍道湖のほとりに
完成した山陰合同
銀行新本店ビル全
景。左後方は旧本
店。



新しい本店ビル、新しい駐車場で
さらに利用しやすい銀行へ

ともすれば無機質になりがちな駐車場のデザインに関しても随所に細心の配慮が成された。なかでも駐車場に彩りを添えているのが、壁一面にしつらえた新聞紙のコラージュだ。「新聞紙なら汚れてもすぐに貼り替えられるし、見映えも悪くない。それに新聞紙ができるヒビを覆い隠してくれます。壁にはあえて地元の新聞記事や経済紙などを貼ることによって当時の世相を浮き彫りにしてタイムカプセルのような役割を持たせたのです」高橋さんは「新聞コラージュ」の意図について、こう語る。

同行の環境と安全性に対する熱意と、I-H-Iのノウハウが集結して、新しいタイプの駐車場ができ上がった。

こうして五六台分の駐車場を確保するに至った同行が次に懸念したのは雪対策だった。よく知られているように山陰地方は日本有数の積雪地帯で、三〇～四〇センチメートルの雪が降ることも珍しくない。

「当地は積雪量が多いので、車の屋根に積もった雪を払い落とさずに駐車場へ入って来られるお客様も多いのです。そのため車高を測りました。また、駐車場内を移動中に車から落ちた雪が、他のお客様の車の故障原因になつたりしないかという心配もありました」

そこで車を傷つけないよう、サービス係が細心の注意を払つて屋根に積もつた雪を払い落とす案が採用された。落ちた雪の問題は、

こうして五六台分の駐車場を確保するに至った同行が次に懸念したのは雪対策だった。よく知られているように山陰地方は日本有数の積雪地帯で、三〇～四〇センチメートルの雪が降ることも珍しくない。

「当地は積雪量が多いので、車の屋根に積もった雪を払い落とさずに駐車場へ入って来られるお客様も多いのです。そのため車高を測りました。また、駐車場内を移動中に車から落ちた雪が、他のお客様の車の故障原因になつたりしないかという心配もありました」

そこで車を傷つけないよう、サービス係が細心の注意を払つて屋根に積もつた雪を払い落とす案が採用された。落ちた雪の問題は、

移転の経緯を、本店建設推進室室長の尼ヶ崎幹夫さんはこう語る。

そこで、平成五年の一二月に移転先を決定し、「都会的で使用効率のいい建物」を造るべく構想を練り上げた。

「移転地が宍道湖に面した見晴らしのいい地

こうして五六台分の駐車場を確保するに至った同行が次に懸念したのは雪対策だった。よく知られているように山陰地方は日本有数の積雪地帯で、三〇～四〇センチメートルの雪が降ることも珍しくない。

「当地は積雪量が多いので、車の屋根に積もった雪を払い落とさずに駐車場へ入って来られるお客様も多いのです。そのため車高を測りました。また、駐車場内を移動中に車から落ちた雪が、他のお客様の車の故障原因になつたりしないかという心配もありました」

そこで車を傷つけないよう、サービス係が細心の注意を払つて屋根に積もつた雪を払い落とす案が採用された。落ちた雪の問題は、

こうして五六台分の駐車場を確保するに至った同行が次に懸念したのは雪対策だった。よく知られているように山陰地方は日本有数の積雪地帯で、三〇～四〇センチメートルの雪が降ることも珍しくない。

「当地は積雪量が多いので、車の屋根に積もった雪を払い落とさずに駐車場へ入って来られるお客様も多いのです。そのため車高を測りました。また、駐車場内を移動中に車から落ちた雪が、他のお客様の車の故障原因になつたりしないかという心配もありました」

そこで車を傷つけないよう、サービス係が細心の注意を払つて屋根に積もつた雪を払い落とす案が採用された。落ちた雪の問題は、

白を基調としたカラーリングの入出庫バース。床はタイル張りで、銀行にふさわしい清潔感があり、しかもゴージャスな雰囲気も漂う明るい空間である。



島根・鳥取両県に強固な地盤を持つ山陰合同銀行は、山陽地域や兵庫県にまで及ぶ広域のネットワークを誇る地方銀行である。

昭和一六年の設立以来、着実に実績を伸ばし、現在は東京やニューヨーク支店を含む六〇店舗（他に出張所一店、代理店二四店）を展開する中堅地銀に成長した。それだけに最近は、昭和二八年に設立された本店ビルだけでは高度で多彩な業務をこなすのに支障をきたすようになった。

「当時としては最先端であった旧本店も、四年の歳月とともに老朽化が進みました。そ

のうえ当時は本店機能が五ヵ所に分散されていたので、一ヵ所に統合したいという要求が日ましに強くなつたのです。それに今は情報通信を駆使していかねばならない時代。従来のOAフロアでは理想の形が実現しにくなければでは高度で多彩な業務をこなすのに支障をきたすようになった。

「当時としては最先端であった旧本店も、四年の歳月とともに老朽化が進みました。そ

のうえ当時は本店機能が五ヵ所に分散されていたので、一ヵ所に統合したいという要求が日ましに強くなつたのです。それに今は情報通信を駆使していかねばならない時代。従来のOAフロアでは理想の形が実現しにくくな

りました」

「当時としては最先端であった旧本店も、四年の歳月とともに老朽化が進みました。そ

のうえ当時は本店機能が五ヵ所に分散されていたので、一ヵ所に統合したいという要求が日ましに強くなつたのです。それに今は情報通信を駆使していかねばならない時代。従来のOAフロアでは理想の形が実現しにくくな

ボウリングと共に、駐車場と共に



1997年4月、戦前からの横浜の繁華街、伊勢佐木町に64台収容のIHIエレベーターパーキングが出現し、好調な滑り出しを見せている。

この立体駐車場の建設は、レジャー施設「ハイランドレジャーセンター」の、実に26年来の悲願だった。同センターの経営曲折の歴史と、駐車場獲得までの歩みを取材してみた。

横浜・伊勢佐木町に回転率日本一の駐車場が出現

「ザキ」の愛称でハマつ子に愛されている伊勢佐木町は、古くから横浜を代表する繁華街である。

今年の四月、そんな伊勢佐木町の中心街に六四台収容の立体駐車場が建設され、いちや居小屋が軒を並べ、大正時代には町をぶらつく「伊勢ぶら」が流行したことでも知られている。その活気は今も変わらず「健在」である。この駐車場はボウリング場やサウナなどの複合レジャー施設を経営するハイランドレジャーセンターが満を持して建店がひしめき、賑わいを見せていく。

「ザキ」の愛称でハマつ子に愛されている伊勢佐木町は、古くから横浜を代表する繁華街である。この駐車場はボウリング場やサウナなどの複合レジャー施設を経営するハイランドレジャーセンターが満を持して建店がひしめき、賑わいを見せていく。

今年の四月、そんな伊勢佐木町の中心街に六四台収容の立体駐車場が建設され、いちや居小屋が軒を並べ、大正時代には町をぶらつく「伊勢ぶら」が流行したことでも知られている。その活気は今も変わらず「健在」である。この駐車場はボウリング場やサウナなどの複合レジャー施設を経営するハイランドレジャーセンターが満を持して建店がひしめき、賑わいを見せていく。

今年の四月、そんな伊勢佐木町の中心街に六四台収容の立体駐車場が建設され、いちや居小屋が軒を並べ、大正時代には町をぶらつく「伊勢ぶら」が流行したことでも知られている。その活気は今も変わらず「健在」である。この駐車場はボウリング場やサウナなどの複合レジャー施設を経営するハイランドレジャーセンターが満を持して建店がひしめき、賑わいを見せていく。



平日の昼間もショッピング客で賑わうセザキモール。



銀行や映画館が立ち並ぶ長者町七丁目交差点。中央奥にハイランドレジャーセンターを望む。

駐車場不足で苦戦する繁華街のレジャー施設

設した「自信作」だ。

「お蔭様で、お客様からの評判も上々で、回転率は日本一だとおっしゃる方もいるんですよ」と胸を張るのは、同社社長の笠原勇治さんだ。

同社の創業は昭和四六年に遡る。当時の日本は未曾有のボウリングブームに沸き立ち、老いも若きもこぞつてボウリング場に詰めかけた。首都圏では五〇〇個所以上ものボウリング場が造られ、人気プロボウラーが次々と出現して、ボウリングは黄金時代を迎えた。そんなブームに目をつけたのが、同社の親会社であるディベロッパーの山万株式会社だった。

しかしブームは長くは続かなかつた。

同社は、いち早く伊勢佐木町の目抜き通りに六階建てのレジャー施設「ハイランドレジャーセンター」を建設した。

「ボウリング経営の指標となるのが、一レーンあたりに消化したゲーム数です。最盛期には一レーンあたり一〇〇ゲームを消化していましたが、半年ぐらいで急激に売上が減って、ついには一ゲームも消化できなくなつた。まさに途方にくれましたね」

そこで四フロア五六レーンあつたボウリング場を削減して、代わりにマージャンや卓球、シャツフルボードなどを導入。四階は時代のニーズに合わせた多目的ルームとしてフレキシブルに活用した。また昭和五三年から早朝までの営業を始めたことも、固定客をつかむきっかけとなつた。

こうして徐々に売上を増やしていくものの、依然として頭を悩ませていたものがあった。

「駐車場はオープン以来最大の頭痛のタネ。当初は一階を駐車場にしていましたが、お客様から『車を入れにくい』と苦情が相次ぎ、困り果てていたんです」

そのまま駐車場の絶対数も不足していた。繁華街型のレジャー施設では、一レーン当たり駐車場が一台必要だというのが業界の常識だったが、同センターの駐車場は三八台分しかなかつたのだ。

「今は電車やバスに乗つて遊びに来る時代じゃない。車で気安く来られる場所でなくては、お客様には足を伸ばしてはくれません。最近は繁華街にあるレジャー施設が軒並み苦戦しているようですが、駐車場不足が原因である可能性は非常に高いですね」

同社が切望していたのが一〇〇台分の駐車場だった。というのも、これだけの駐車場があれば、料金の設定次第ではお客様を招き寄せることができると思つたからだ。

しかし、横浜屈指の歓楽街である伊勢佐木町に一〇〇台分の駐車場を確保するのは、並み大抵のことではなかつた。それどころか一階の駐車場にボウリングのロッカールームを増設したために駐車台数はさらに減つてしまい、一時は近くの駐車場を借りて急場をしのいだこともあったという。

「しかし、マイボールを持って来るお客様も多いので、駐車場がセンターから離れていても、客足が途絶えてしまうんです。遊びに来ていて喜ばれなかつたらダメですよ。要するにあの駐車場では、商売が成り立たなかつたということです」

「お蔭様で、お客様からの評判も上々で、回転率は日本一だとおっしゃる方もいるんですよ」と胸を張るのは、同社社長の笠原勇治さんだ。

同社の創業は昭和四六年に遡る。当時の日本は未曾有のボウリングブームに沸き立ち、老いも若きもこぞつてボウリング場に詰めかけた。首都圏では五〇〇個所以上ものボウリング場が造られ、人気プロボウラーが次々と出現して、ボウリングは黄金時代を迎えた。そんなブームに目をつけたのが、同社の親会社であるディベロッパーの山万株式会社だった。

しかしブームは長くは続かなかつた。

同社は、いち早く伊勢佐木町の目抜き通りに六階建てのレジャー施設「ハイランドレジャーセンター」を建設した。

「ボウリング経営の指標となるのが、一レーンあたりに消化したゲーム数です。最盛期には一レーンあたり一〇〇ゲームを消化していましたが、半年ぐらいで急激に売上がり減って、ついには一ゲームも消化できなくなつた。まさに途方にくれましたね」

そこで四フロア五六レーンあつたボウリング場を削減して、代わりにマージャンや卓球、シャツフルボードなどを導入。四階は時代のニーズに合わせた多目的ルームとしてフレキシブルに活用した。また昭和五三年から早朝までの営業を始めたことも、固定客をつかむきっかけとなつた。

こうして徐々に売上を増やしていくものの、依然として頭を悩ませていたものがあつた。

「駐車場はオープン以来最大の頭痛のタネ。当初は一階を駐車場にしていましたが、お客様から『車を入れにくい』と苦情が相次ぎ、困り果てていたんです」

そのまま駐車場の絶対数も不足していた。繁華街型のレジャー施設では、一レーン当たり駐車場が一台必要だというのが業界の常識だったが、同センターの駐車場は三八台分しかなかつたのだ。

「今は電車やバスに乗つて遊びに来る時代じゃない。車で気安く来られる場所でなくては、お客様には足を伸ばしてはくれません。最近は繁華街にあるレジャー施設が軒並み苦戦しているようですが、駐車場不足が原因である可能性は非常に高いですね」

同社が切望していたのが一〇〇台分の駐車場だった。というのも、これだけの駐車場があれば、料金の設定次第ではお客様を招き寄せることができると思つたからだ。

しかし、横浜屈指の歓楽街である伊勢佐木町に一〇〇台分の駐車場を確保するのは、並み大抵のことではなかつた。それどころか一階の駐車場にボウリングのロッカールームを増設したために駐車台数はさらに減つてしまい、一時は近くの駐車場を借りて急場をしのいだこともあったという。

「しかし、マイボールを持って来るお客様も多いので、駐車場がセンターから離れていても、客足が途絶えてしまうんです。遊びに来ていて喜ばれなかつたらダメですよ。要するにあの駐車場では、商売が成り立たなかつたということです」

割引サービスを武器に最大入出庫二〇一台、平均売上一〇万円を達成

そんなとき、千載一遇のチャンスが訪れた。たまたま同社の隣地が競売にかけられたのだ。「バブルの頃はこの辺の土地も一坪一〇〇〇万円以上したので、とても手が出せませんでした。ところがバブルがはじけたお陰で、商売として成り立つ価格で土地が購入できたのです」実際に二〇年ぶりに転がり込んだ絶好のチャンスである。

永年、理想の駐車場を思い描いていた同社が何より造りたかったのは、「地域の温度を変えるぐらいのパワーがあるもの」だ。

「いいものを造ろう、お客様に見にきてくれるようなハイレベルなもの」

その一念で、社長は駐車場創りに没頭した。比較検討熟慮の結果、IHIのエレベーターパークを導入することを決定。外観は、白地に鮮やかなブルーの文字が映える爽やかなデザインに照明も明るく設計した。

以前からクレームが絶えなかつた「車を入れにくい」という問題は、道路から駐車場までのスペースを多めにすることによってクリアし、出入庫をスマートに行なえるよう工夫がなされた。これが「伊勢佐木モール」の大きな特徴だ。

あのグリーンの色面は、実は、近くの北沢八幡神社の杉の樹、銀色の鳥は、世田谷区の鳥である尾長鳥だとか。やや斜めからパークリングを見直せば、確かに杉の樹が現れた。もう一つ凝っているのが、内部からガラスの三角窓越しに、本物の樹が見られること。ただし、こちらの景は、利用者でないと楽しめない。

尾長鳥が とまつている パークイング

若者のアミューズメント・ポイント下北沢。その賑わう街角を右折してほんの一〇メートルも行くと、ひときわ色鮮やかなパーキングがそびえている。

正面から見れば、グリーンの色面が左右の下方を三角に占め、上部のまばゆいばかりの白に、"TARO"の赤と"P"の青が鮮やかに映える。まことに明快な幾何学的デザインであるが、その中央部には不思議な異色の鳥^{モモ}.....。



を凝らした。また待合室にテレビを置くなど、随所にきめ細やかな配慮もした。

「サービス業は人が基本。お客様・従業員・協業者を含めた人の気持ちを知り、学ぶことが大切です。だから、サービスは無機質なものではダメです。人の体温やぬくもりが感じられるものでなければ、お客様は瞬時に見抜き、すぐに離れてしまいます。そのため駐車場の外観ばかりでなく、周辺のことにもまで十分にこだわって造り上げたつもりです」

の設定だった。駐車料を低めに抑えるとともに、あえて一般客と館内利用者に料金格差を設けて、集客効果を狙った。館内利用者の駐車料金を、三時間以内で二〇〇円という破格値に設定した戦略は、見事に当たった。

「駐車場に関しては、ほぼ九九%のお客様が一〇〇〇円以内のご利用ですが、それでも一日の売上が一〇万円前後に達しています。深夜、駐車場の待合室にお客様が何人も利用されているのを見た時には、つくづく『ああ、

「堅実」とともに同社を支えてきたのが「継続的経営」である。それは、従業員と経営者とが自らの体を使って体得した貴重な教訓なのだ。「ボウリングの売上がほとんどゼロになつて初めて気がついたのは、普通、企業は倒産するものだ」ということです。継続企業にするためには、継続したいという願望と強力な企業パワーを必要とするということです。商売を続けて、まるで、数年一回は企業が試される

心を忘れる事はない。常に経営陣は懸命に自己改革をし続けなければ会社の成長が止まる点を肝に命じて、襟を正す。ハイランドレジャーセンターの当面の目標は、二〇〇六年までに五店舗・五〇億円企業に育て上げることだ。現在、同社では仕事を標準化するとともに、新卒者を採用して活性化を図るなど、目標到達のために着々と手を打っている。

駐車場獲得という“悲願”を達成した同社が、次に何を試みるのか。同社の動向からはさすが、目が離せそうもない。



堅実・継続的な経
二〇〇六年、五店
五〇億円企業へ

お客様からのたつての希望で来年には待合室にクーラーを取り付ける準備をしており、設備投資にも余念がない。こうした地道な努力が実つて、一日の最高入庫台数は二〇一台に達したという。

二〇年以上にわたって厳しいレジャー産業の競争で鎧を削ってきた社長は、日本経済がこの二年で淘汰の波にさらされると主張する。

時が来る。苦境に直面しても諦めないで、現状の事実を楽しみながらいろいろ考え、実行し、反省する。これが継続の秘訣です」度重なる窮地をかいくぐってきた男ならで

IHIパーキングシステムは、
世界的な注目を
集めていますが、その背景として、
世界各地の技術提携先。
業務提携企業の活躍に負うところが
大きいことは、言うまでもありません。
今回ご紹介するのは、
マレーシアにおける技術提携先である
C.H.アンプル・パーク社です。

**マレーシア
C.H.Ample-Park Sdn.Bhd.
C.H.アンプル・パーク社**



1996年9月19日、マレーシアのペナンでの
技術提携・調印式風景。(左から2人目
C.H. Steel社フィリップ・スーン社長。右
から2人目IHI三代卓郎取締役)

ペナンに建設された最新のC.H.アンプル・パーク社の工場。



今年7月、クアランプールのワールド・トレード
センターで開催された“City Transport '97”
で、エレベーターパーキングの模型を中心に。

C.H.アンプル・パーク社の
インターネット画面の例。

IHI signed a licensing agreement with a Malaysian steel fabrication company.

1996年9月19日にIHIとマレーシアの大手
鉄鋼物製作会社であるC.H.Steel社は、マレ
ーシアで最初の機械式駐車装置の技術提携に
調印しました。

C.H.Steel社は新たにC.H.Ample-Park社
を設立し、同社はパーキングシステムの企画、
販売、製作およびメンテナンス一式を担当し
ています。また、IHIのエレベータ
パーキングと二・多段式駐車装置、
物流システムおよびクレーンをマ
レーシア、シンガポール、ブルネイ地域で販
売しています。

同社は、本社をペナンに置き、クアラルンプ
ール、ジョホールバルおよびシンガポールに
事務所を設置し、営業活動を行なっています。
今年の7月、8月にはクアラルンプールでい
くつもの展示会にパーキングシステムを出展
して好評を博しました。

また、9月に開催された、マレーシアのビ
ルディングに関する展示会“MALBEX '97”
では、実際のエレベーターパーキングの模型を
出展し、デモンストレーションを行ないました。
このほかシンガポールでの展示会にも参
加しています。

このように、C.H.Ample-Park社は、東南
アジア地域でのパーキングシステムの発展の
ために、中核メーカーとして活動しています。

C.H.アンプル・パーク社のあるペナンは、
海と緑が美しい島。島中央のペナン・ヒ
ルからの眺望は素晴らしい。高いビルは、
ジョージタウンの総合ショッピングセ
ンターで通称コムタワー。遠くマレー半島
の山並みも望める。



C.H.アンプル・パーク社発のリポート。

建築・建設業界の

—インターネットに関する世の中の動きや行政の動きについてお話をいただけますでしょうか?

ソトに載っています。新聞よりさらに詳しい情報が得られるという意味では、非常に利用価値があるのではないかと思います。これは、たぶんアメリカのほうがもつと充実していて、海外の資料収集・調査では非常に有用です。

今までですと、わざわざ海外に行つて、そこで心掛けてさまざまなお情報を入手して帰つてくるのですが、ただ、そういう情報も常に時間とともに変化していますので、その更新というのは非常に難しかったのです。アメリカの場合、自治体によつてはかなり詳しい情報まで、日本で入手できます。制度や条例もインターネットで検索できる場合もあるので、逆に視察に出ていつて、足で情報を集めるよりは、はるかに効率が高いわけです。

また、インターネットの使い方がわかつてホームページを作つていているところというといった問題です。作り方として、特に商業ツールとして用いる時には、カタログ的な情報を一方的に流すだけではなくて、もう少しコミュニケーションがとれるような、インターラクティブなホームページの作り方が、大事になつてくると思います。そのへんが商業的なチャンスにつながるかどうかの分岐点になるのではないかがでしようか？

——最近のプレゼンテーションの際のCGなどパソコンの利用状況はいかがででしょうか？

倉田：私共でも三次元のCGやプレゼンテーションは不可欠なものになつてきていました。精度も高いし、最近の技術は非常に高
度です。コンピュータの世界全体から見て
も、この分野はかなり進んできている気が
します。

私共が関わつてゐる街づくりで考へると、コンピュータを使つたシミュレーションは非常に意義がある。こんなふうになります
といふ話が、いろいろ条件を変えたら今度はこうなりますよつていうことが非常にわかりやすく説明できます。駐車場の場合は特に反響は大きいと思います。駐車場は機能的には必要な施設ですが、景観上は見えない施設なのです。施設の中での配置の問題もありますが、機能の説明や車の動線の説明をする場合に、CGによるシミュレー
ションやプレゼンテーションは大いに効果があると思います。

——本日は、どうもありがとうございました。

個人ユーザーから企業、行政まで、あっという間に普及したインターネット。昨年の日本におけるインターネット接続契約数は六百数十万に上り、今年中に世界のインターネット利用者は六千万人に達すると言われています。そこで今回は、大学の講師であり、また建築・設計の現場でインターネットを活用しているという倉田直道さんに“動向”を伺ってみました。

便利で
りだけだ
り始め
私の友人
して
小さな組
事務所と
す。そ
うの
ですが
方の事務
ツトなし
FAXと
ことが可
のにはタ
いのです
また、
日本とア
つて、ち
所で作業
おく。そ
ータが届

図面CADデータをやりとり
、インターネット上で相当
のではないかと思います。
CADのデータをやりとり
ころもありますし、また、
部の図面製作を外部の協力
するというケースもありま
に、都内であれば構わない
友人の場合は、実施図を地
頼しているのでインターネ
立たないというわけです。
、データそのものをいじる
から、やりとりが必要なも
グもなく、非常に効率がい
のやりとりを考えた場合、
は時差が一二時間くらいあ
半日です。日本の設計事務
、帰る時に向こうに送つて
と向こうの時間の朝に、デ
です。それで向こうが昼間



サザエさん通りで有名な、東京・世田谷区桜新町の街作りのコンサルタントもしている(駅前広場部分バス-)。「桜新町は6年で7年前から携わっているのですが、何とか動き始めて、道路の整備はできています。あとはもう1回辺りですね。商店街の皆さんが、このプロジェクトでご自分の商店をもう少し発展させていただけるように、お店の造り等も含めて街づくりを考えています」。

ずっと作業して、こちらへ送り返してくる
と、次の日の朝に作業したものが返つて来
ているわけです。ですから二四時間、そ
ういう意味では無駄なく作業できるというよ
うな話がありますね。そこまで徹底してや
つてるところは、まだそんなにはないと思
いますけど、可能性としてはこんなことも
できるわけです。

実験的な段階ですけども、今、大学レベ
ルでインターネットを使ってどんなことが
できるかという試みをやっています。具体
的に私の知っている範囲では、マサチュー
セツツ工科大学と熊本大学がまさにパソコ
ン上で、両方の学生が一つのプロジェクト
をインターネットを通じてまとめるとい
ふことをやっています。一つの画面上でやり
とりをしようということを検討しているグ
ループもあるようです。

——海外でも日本でも、設計事務所や建築

倉田：増えていきますね。建築家のホームページページはなかなかきれいでいいのですが、写真が非常に多いのです。情報量が多くて開くまでにすごく時間がかかります。時間があまりかかるから、途中でもううんざりしちゃって、みんなやめてしまうのですよ。階層化しないとだめですね。

――どういった内容がお客様に有意義なホームページになるのでしょうか？

倉田：どこの会社もホームページを作るには作っているのですが、その次の段階をどのくらいインテラクティブにやれるかとということですね。逆に言えばホームページ

コンピュータを使ったシミュレーションは非常に意義がある。こんなふうになりますという話が、いろいろ条件を変えたら今度はこうなりますよっていうことが非常にわかりやすく説明できます。駐車場の場合は特に反響は大きいと思います。駐車場は機能的には必要な施設ですが、景観上は見えない施設なのです。施設の中での配置の問題もありますが、機能の説明や車の動線の説明をする場合に、CGによるシミュレー ションやプレゼンテーションは大いに効果があると思います。

——本日は、どうもありがとうございました

個人ユーザーから企業、行政まで、あっという間に普及したインターネット。昨年の日本におけるインターネット接続契約数は六百数十万に上り、今年中に世界のインターネット利用者は六千万人に達すると言われています。そこで今回は、大学の講師であり、また建築・設計の現場でインターネットを活用しているという倉田直道さんに“動向”を伺ってみました。

金田一圭介

倉田 直道氏
早稲田大学講師、武蔵野美術大学講師、
株式会社アーバンハウス都市建築研究所
代表取締役

封建制が生んだ諸侯の大規模城市

清田 圭一（比較思想・文化論）

封建制は中世の西欧と日本のみに固有の政治形態で、それが近代文明を生んだとされる。だが実は、前十一世紀の中国で殷を滅ぼした周王朝が既にその制度を創設していた。

周は血族を各地に分家して諸侯としたが、

その際、土盛りした壇を「封」じ、その上に各家の標の樹を植え「建」て、祖先神を祭る社とさせた。これが封建の本義である。当然、その場は諸国の聖域で、戦いの折には戦車、馬匹、兵士を社に集結させて出陣した。

それ故、第五代の穆王が西遊したときも都の宗廟[現・西安市西郊]の社から出発したであろう。彼は八頭の駿馬が曳く一台立ての車に乗り、替えの副車を用意して千里の彼方へ疾駆し、巨蒐氏の國を経て崑崙山の瑤池のほとりに車駕を駐めた。そして、ここに住む仙女の西王母を訪れて大いにもてなされ、時を忘れた。更に、太陽の沈む地を見ようと一日に一万里ずつ走り続けたが、ついに果たせず、戻った。

このように理想を実現した周王朝も後代の王たちが酒色に溺れたため諸侯や貴族が次第に離反して衰退し、妖女の褒姒に心を奪われた第十二代幽王が前七七年に諸侯に殺されに至った。次の平王は成周[現・洛陽市]に東遷し、それ以後、秦の始皇帝が全土統一す

る前二二一年までを春秋・戦国時代と呼ぶ。

この頃、南方の楚、吳、越が台頭し、中原の魯、齊、晋など十数の強国も交えて相互に抗争・和平・連合・分裂を繰り返した。そう

したなかで各地に大商工業都市が造営された。

たとえば齊の首都臨淄は東西三・三キロ、南北五・二キロの小城が付随する大規模な城市

で、春秋期には千戸程度だったが戦国期にな

ると一万戸以上で人口六十万。住民は市場を中心に行なったり、酒宴や鳥射ちを楽しむ台榭と

いう高樓が建っていた。社の後継の形である。この地域には鐵器铸造工場や貨幣铸造所などもあったが、駐屯する戦車四千台、歩兵三十万、騎兵数千人で、弩で武装していた。

このような大都市が十個以上、小都市と牛車がぎっしり詰まつて停滞し、街路は遊びに出かける人々の肩が触れあう賑わいで常にざつたがえした。

小城の宮殿地域には高さ十四メートルの三層の土台が築かれ、その上に貴族たちが祭祀を行なったり、酒宴や鳥射ちを楽しむ台榭と

いう高樓が建っていた。社の後継の形である。この地域には鐵器铸造工場や貨幣铸造所などもあったが、駐屯する戦車四千台、歩兵三十万、騎兵数千人で、弩で武装していた。

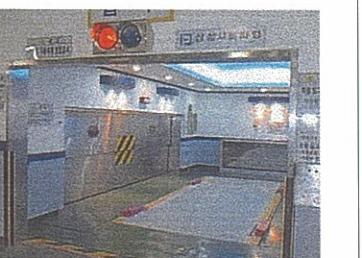
もなれば三百を超える、それぞれが攻め合う際は濠を越える橋置橋や城壁に登る雲梯といつた武器が発明され、大いに用いられた。

都市化はまた思想家たちを育てた。前五〇年に孔子が魯の曲阜において、干肉一束の謝札だけで誰もが理想政治を学べる私塾を開くや、各地にさまざまな論客が輩出した。合理主義の墨子、理想主義の老子、自由主義の莊子、個人主義の楊朱、社会主義の孟子、体系主義の荀子、実証主義の韓非子などの諸子百家である。彼らは小さな馬車を諸城下に駐め、自説を熱心に君侯に説いて回ったという。

三星重工業では、この後も大型のシヤトルパークリングの完成が続いているおり、駐車場不足の一助となるものと思われます。

宇都宮にタワーパーキングハ墓連立の大規模市営駐車場完成!

Topics



去る一〇月一日、深刻化する駐車場不足に対応するため、栃木県宇都宮市の中心街に「宇都宮市営相生駐車場」がオープンしました。これは、タワーパークリング八基連立で二〇六台が収容できるもので、宇都宮市営駐車場としては初めての機械式駐車場の採用となります。

タワーパークリングは非常に円滑性に優れているので、駐車場待ちの行列も緩和されるものと期待されています。

宇都宮市をはじめ、関係者の間では期待されています。自治体が運営する駐車場では、自走式が導入される例が多いのですが、今後、中規模駐車場に適したタワーパークリングやエレベーターパークリングなどの機械式駐車場のニーズが高まっていくものと予想されます。

From Seoul

ソウルにも初登場! シャトルパークリングシステム

韓国での技術提携先である三星重工業では、首都ソウルにシヤトルパークリングシステムの第

一号機を完成させ、この夏より稼働中です。日本と同様に駐車場問題が年々深刻化するソウルですが、

お蔭様でCUBEも第一号。来年の夏ごろに発行される第二〇号では、記念号として、いろいろな企画を用意したいと思います。

記念号にふさわしい記事についてのアイデアや情報などをお寄せいただければ幸甚です。また、次号（第一九号）でアンケートをお願いし、その集計結果を第二〇号で発表させていただきます。

なお、六月に開設したインターネット・ホームページに関するご意見や、Eメールもお待ちしております。



No.18
Autumn, 1997

CUBE

発行日●1997年11月29日
発行●石川島播磨重工業株式会社
パーキングシステム事業部
〒100 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル Tel03-3244-6408
編集責任者●梶川敬一郎(第一営業部部長)
編集●営業推進グループ
制作●株式会社 RIV アソシエーツ
印刷●株式会社リプロ
©石川島播磨重工業株式会社 禁無断転載複写

C³
キューブコミュニティ
COMMUNITY

ホームページ・アドレス

<http://www.ihc.co.jp/parking/>